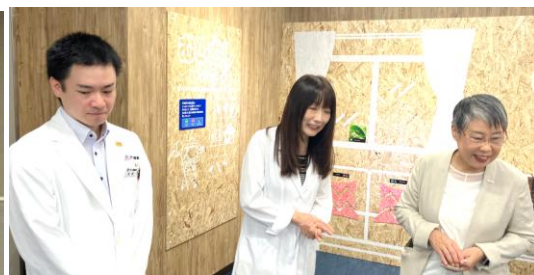


神戸市外来生物展示センターに「昆虫室」がオープン ～アース製薬の全面協力のもと、身近な昆虫の生態を学ぶ新エリアが誕生～

8月24日（日）、日本で唯一の外来生物問題に特化した公的施設である神戸市立外来生物展示センターに、新たに「昆虫室」がオープンしました。この昆虫室は、2025年6月に神戸市と締結した包括連携協定に基づき、アース製薬が寄附および昆虫の生体・標本等の提供を行い、全面的に協力したものです。オープン当日は記念イベントが開催され、神戸市の黒田慶子副市長にご臨席を賜り、当社からは執行役員の平松淳が挨拶を述べました。また、当社研究開発本部の有吉立マイスターによる特別セミナー「身近な害虫の知られざる生態と対策」も実施。ゴキブリやトコジラミといった衛生昆虫の驚くべき生態について、多くの子どもたちや保護者が熱心に聞き入っていました。新設された昆虫室には、体長7cmにもなるマダガスカルゴキブリの「ゴキブリタワー」や、近年被害が急増しているトコジラミの生体展示、サクラ等への被害が懸念される特定外来生物クビアカツヤカミキリの標本など、当社ならではの展示が満載です。当社は、本協定の目的である「神戸の豊かな自然と共生した、安全・安心で持続可能なくらしの実現」に向け、今後も神戸市と連携し、生物多様性の保全と市民への啓発活動に貢献していきます。



神戸市 黒田慶子 副市長によるご挨拶



有吉マイスターによる講座・萩原主任による説明



アース研究棟で飼育されている昆虫を、当センターに提供（写真はマダガスカルゴキブリ）